

## 令和2年度 富山県固定資産評価審議会 議事概要

- 1 日 時 令和3年2月26日(金) 15:00～15:45  
2 場 所 富山県民会館 701 会議室  
3 出席委員 唐渡委員、北山委員、服部委員、谷井委員、柳原委員、林委員、  
土開委員、齋藤委員、杉林委員(代理:富山税務署 新田筆頭副署長)、  
中田委員(代理:吉武 富山市財務部次長)、藤澤委員、  
滝委員(代理:古埜 経営管理部理事)
- (12名出席)
- <事務局(県経営管理部市町村支援課)>  
開発課長、青島副主幹、高田主事、藤中主事

### 4 概 要

#### (1) 挨拶

#### (2) 議 事

令和3年度の土地(宅地、田、畑及び山林)の提示平均価額(案)について  
(事務局より説明)

#### (3) 審議結果

原案どおり了承された。

<委員からの主な意見>

#### 【県内の地価の動向等について】

##### ○服部委員

本年度は、不動産鑑定士として、新型コロナウイルス感染症の影響をどのように捉えるかということが特に難しい作業だった。土地の価格においては、分極化・二極化が起こっており、相対的に見て、住宅地や工業地においては予想していたほどの大きな下落はなかった。全体的には、その地域に求められているニーズに合ったものを提供できるかということが価格の変動に影響していると感じている。例えば住宅地であれば、駐車場に止められる車の台数、近隣の音、スーパー、小学校区や政策としての子育て支援等がニーズであり、それにどれだけ応えられるかということが競争力につながっている。また、多くの市町村で村落の標準宅地の価格が下落しており、それは昨今の空き家問題が価格に反映されてきたものと思っている。今後は空き家にさせないなどの予防の観点も大切である。

以上